

老年期うつ病

認知症に似た症状も 変調感じたら受診を

うつ病と言えば、気持ちの落ち込みをイメージしがちですが、老年期うつ病（高齢者世代のうつ病）は、精神的症状よりも頭痛、めまい、食欲不振、吐き気、耳鳴りなど身体的症状を訴えるケースが多く見られます。検査を受けても悪いところは見つからず、原因不明の場合もあります。

老年期うつ病は、自身の退職や子どもの独立といった「環境的要因」と、配偶者との死別や肉体的な衰えなどの「心理的要因」の二つが主な原因といわれていますが、厄介なのは症状が認知症に似て紛らわしい点です。「一日中ぼーっとしている」「なんとなく元気がない」といった症状は、認知症の初期にも見られます。記憶力・判断力の低下といった点もよく似ています。老年期うつ病から認知症へ移行するケースや、二つが併発して起こるケース、老年期うつ病が原因で「仮性認知症」を発症するケースもあります。

高齢者が高齢者の介護をする「老老介護」が増えている今日、老年期うつ病への対応は、より重要性が高まっています。この問題は、介護を必要とする方と介護をする方の双方に起こるからです。体調がおかしいと感じたら、すぐに医療機関を受診しましょう。

南東北グループ広報誌「南東北第 338 号」より転載